

そんし ぐんそうへん  
孫子「軍争篇」

32 孫子曰わく、凡そ用兵の法は、將命を君より受け、軍を合し衆を聚め、和を交えて合ま

るに、軍争より難きは莫し。

軍争の難きは、迂を以て直と為し、患を以て利と為す。故に其の途を迂にしてこれを誘うに利を以てし、人に後れて発し

て人に先きんじて至る。此れ迂直の計を知る者なり。故に軍争は利たり、軍争は危たり。軍を挙げて利を争えば則ち及

ばず、軍を委てて利を争えば則ち輜重捐てらる。是の故に、甲を巻きて趨り、日夜処らず、道を倍して兼行し、百里に

して利を争うときは、則ち三將軍を擒にせらる。勁き者は先きだち、疲るる者は後れ、其の率 十にして一至る。

五十里にして利を争うときは、則ち上將軍を蹶す。其の率 半ば至る。三十里にして利を争うときは、則ち三分の

二至る。是れを以て軍争の難きを知る。是の故に軍に輜重なければ則ち亡び、糧食なければ則ち亡び、委積なければ

則ち亡ぶ。

33 故に諸侯の謀を知らざる者は、予め交わることを能わず。

山林・險阻・沮沢の形を知らざる者は、軍を行くこと能わず。郷導を用いざる者は、地の利を得ること能わず。

34 故に兵は詐を以て立ち、利を以て動き、分合を以て変を為す者なり。

故に其の疾きことは風の如く、其の徐なることは林の如く、侵略することは火の如く、知り難きことは陰の如く、動かざることは山の如く、動くことは雷の震うが如くにして、郷を掠むるには衆を分かち、地を廓むるには利を分かち、権を懸けて而して動く。迂直の計を先知する者は勝つ。此れ軍争の法なり。

35 軍政に曰わく、「言うとも相い聞えず、故に鼓鐸を為る。視すとも相い見えず、故に旌旗を為

る。」と。

夫れ金鼓・旌旗なる者は人の耳目を一にする所以なり。人既に専一なれば、則勇者も独り進むことを得ず、怯者も独り

退くことを得ず。紛紛紜紜、鬪乱して乱るべからず、混混沌沌、形円くして敗るべからず。此れ衆を用う  
るの法なり。故に夜戦に火鼓多く昼戦に旌旗多きは、人の耳目を變うる所以なり。故に三軍には氣を奪うべく、  
將軍には心を奪うべし。是の故に朝の氣は鋭、昼の氣は惰、暮の氣は帰、故に善く兵を用うる者は、其の鋭氣  
を避けて其の惰帰を撃つ。此れ氣を治むる者なり。治を以て乱を待ち、静を以て譁を待つ。此れ心を治むる者なり。近き  
を以て遠きを待ち、佚を以て勞を待ち、飽を以て飢を待つ。此れ力を治むる者なり。正々の旗を邀うること無く、堂々の  
陳を撃つこと勿し。此れ變を治むる者なり。